

磐城高校とは その2

磐城高校とは皆さんにとってどのような場所であったでしょうか。私にとっては、かけがいのない場所であり、思い出多き場所ですが、同時に困難が突然舞い降りる場所であったことも事実です。

勇躍、磐城高校に入学したものの野球部生活に見切りをつけたもののブラブラとした生活が続き、数学の一斉テストで5点を取るという困難にぶち当たりました。もちろん100点満点です。周りの何人かを見てみると2点とか4点とか、そんな感じなのでほっと胸をなでおろしたのもつかの間、恐るべきは、そのテストで100点を取るという人物の存在を知るのでした。教員曰く、何年か前の東大の問題も入れておいたというわけですから、100点を取られると肩身がいつぱいに狭くなるのです。数学に別れを告げるか悩みました。しかし、2年生になって、数学が奇跡的に復活するのです。その面倒をこまめにしてくれた教師との出会いによって、私の数学は救われました。

中途半端な生活に我慢できず、出版委員会に飛び込みました。出版委員会は、2年生4人と1年生1人と小さな所帯でありましたが、我々が6、7人ぐらい飛び込んだことによって、一躍大所帯に様変わりをして、県の新聞大会でもその存在をアピールする学校になりました。その後、生徒会会長に立候補し、当選してから、校舎建て替えの真っただ中での文化祭延期問題で揺れに揺れ、生徒会総会を何度も行いつつ、何とかアセンブリを文化祭の代わりに行うことで決着したのを思い出します。

高校生活のすべてを生徒会活動に賭けた私は、その後バーンアウト症候群となり、国立大学のⅡ期校には合格したものの、浪人生活に突入するのです。今考えるとなんとというわがままな学生時代だったのかと肝を冷やします。

大学時代にも、腎盂炎になったり、お尻のおできで苦労したり、教職を取る締めくくりの申し込みを5分遅刻し、結局、独自で福島県教育委員会に申し込まなければならなくなって東京福島間を2往復したり、まったく、苦労の種は尽きることなく、突然に速やかに自分のところに舞い降りることがありました。

それでも、そのことを苦労とらえるか、次へのチャンスととらえるかによって次が代わるのだということを学んできたのも事実です。

「困難に耐え忍ぶ勇気を継続することによって、困難を克服する力を養うことができるのだ」として、次を考え進みましょう。つらく悲しい日々は、今の自分を傷つけるが、やがて、自分の力にそれを克服する力が養われる日が必ず来ると私は信じています。私は、あなた方のそばにずっといます。